

# 千葉市感染症発生動向調査情報

2025年 第47週 (11/17-11/23)

## 1 定点把握対象感染症(五類感染症の一部)

定点	報告定点医療機関数			
	第47週	第46週	第45週	第44週
小児科	16	16	16	15
ARI(急性呼吸器感染症)	26	26	26	26
眼科	5	5	5	5
基幹	1	1	1	1

上段: 報告患者数、下段: 定点当たりの報告数

定点当たりの報告数: 報告患者数/報告定点医療機関数

定点	感染症	発生動向	11/17-11/23 第47週	11/10-11/16 第46週	11/3-11/9 第45週	10/27-11/2 第44週
小児科	RSウイルス感染症		2 0.13	2 0.13	4 0.25	7 0.47
	咽頭結膜熱		1 0.06	0 0.00	0 0.00	1 0.07
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	↓	29 1.81	31 1.94	16 1.00	35 2.33
	感染性胃腸炎		60 3.75	62 3.88	57 3.56	63 4.20
	水痘		4 0.25	3 0.19	1 0.06	3 0.20
	手足口病		1 0.06	6 0.38	4 0.25	8 0.53
	伝染性紅斑		2 0.13	2 0.13	1 0.06	4 0.27
	突発性発しん		7 0.44	0 0.00	2 0.13	2 0.13
	ヘルパンギーナ		2 0.13	0 0.00	5 0.31	7 0.47
	流行性耳下腺炎		0 0.00	2 0.13	0 0.00	0 0.00
ARI	インフルエンザ (高病原性鳥インフルエンザを除く)	★★★↑	1,386 53.31	1196 46.00	662 25.46	499 19.19
	新型コロナウイルス感染症		23 0.88	23 0.88	18 0.69	29 1.12
	急性呼吸器感染症	↑	2,347 90.27	2,111 81.19	1,778 68.38	2,201 84.65
眼科	急性出血性結膜炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	流行性角結膜炎		0 0.00	2 0.40	1 0.20	2 0.40
基幹	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	細菌性髄膜炎 (髄膜炎菌性髄膜炎を除く)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	マイコプラズマ肺炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	無菌性髄膜炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	感染性胃腸炎 (ロタウイルスに限る)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	インフルエンザ入院	↑	2 2.00	1 1.00	0 0.00	0 0.00
	新型コロナウイルス感染症入院	↓	0 0.00	3 3.00	0 0.00	5 5.00

※「発生動向」欄のマークについて

< 流行状況 >

★★: 「警報レベル」流行発生警報開始基準値以上(終息基準値を下回るまで継続表示)

★: 「注意報レベル」流行発生注意報基準値以上

※警報レベル・注意報レベルについては、市感染症情報センターWebSiteの「警報・注意報の解説」のページをご覧ください。

< 増減 >: マークの対象は当該週又は前週の定点当たりの報告数が1.00以上

↑ ↓: 「増加・減少」定点当たりの報告数が前週より5%を超えた増加または減少

2 全数報告対象感染症 13 件

感染症		性別	年齢層	感染症	性別	年齢層
結核	患者	男	90歳代	百日咳:5件	男	40歳代 2
腸管出血性大腸菌感染症		女	60歳代		女	50歳代 1
百日咳:6件		男	10歳未満 1		男	60歳代 1
		男女	10歳代 4		男	70歳代 1
		女	30歳代 1		-	-

結核1件(135)、腸管出血性大腸菌感染症1件(36)、百日咳11件(982)の発生届があった。

※ ( )内は2025年の累積件数。但し、累積件数は速報値であり、データが随時訂正されるため変化します。

3 定点当たり報告数 第47週のコメント

<A群溶血性レンサ球菌咽頭炎>

前週より減少し1.81となった。年齢階級別の報告数は6歳が最多。

<感染性胃腸炎>

前週からほぼ変化なく3.75となった。年齢階級別の報告数は1歳が最多。

<インフルエンザ>

前週より増加し53.31となった。流行発生警報開始基準値(30.0)を上回ったままで、過去5年の同時期と比べ最多のまま。年代別の報告数は10-19歳(合計)が最も多く、10歳未満では6歳が最多。

<急性呼吸器感染症>(第15週から調査開始)

前週より増加し90.27となった。年代別の報告数は0-9歳(合計)が最も多く、5-9歳が多かった。

<インフルエンザ(入院)>

前週より増加し2.00となった。

<新型コロナウイルス感染症(入院)>

前週より減少し0となった。

■ 各感染症のグラフ、インフルエンザ発生状況は、市感染症情報センターWebSiteでご覧いただけます。

・感染症発生グラフ

<https://www.city.chiba.jp/hokenfukushi/iryoeisei/khoken/kkagaku/idsc/documents/graph2025.pdf>

・インフルエンザ発生状況

<https://www.city.chiba.jp/hokenfukushi/iryoeisei/khoken/kkagaku/idsc/documents/influ2025.pdf>

■ トピック ■

<侵襲性肺炎球菌感染症>

2025年第46週時点の全国の届出累積数は2,959件であり、過去5年の同時期と比べ最多となっています。都道府県別では東京都(332件)が最も多く、次いで大阪府(273件)、神奈川県(217件)の順となっています。千葉県は144件で、全国で6番目の多さとなっています。

千葉市では2025年第23週に過去5年で最多であった2024年の年間届出数12件に並び、その後第25週、第28週、第29週に各1件、第46週に2件の届出があり累積届出数は17件となりました(図1)。また、死亡例は4件ありました。

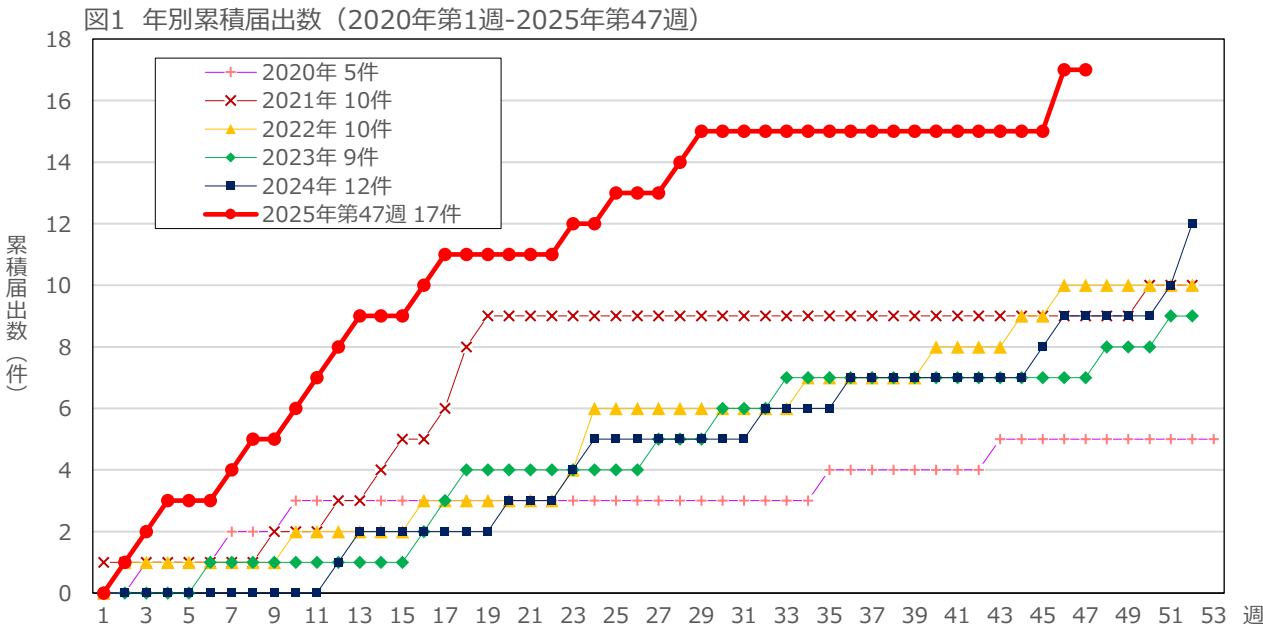
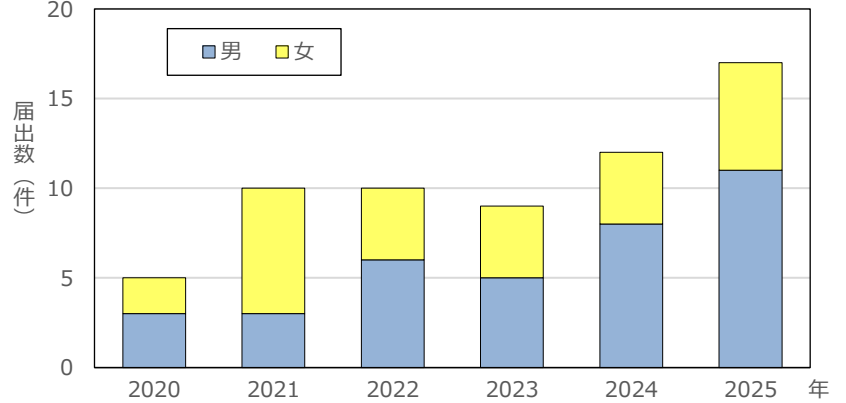
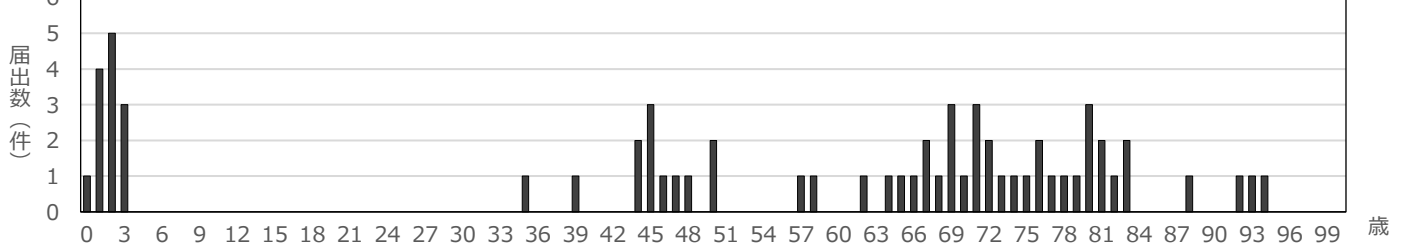


図2 年別・性別（2020年第1週-2025年第47週 n=63）



2020年第1週から2025年第47週までに男性36件(57.1%)、女性27件(42.9%)の合計63件の届出がありました。年別の届出数は2021年以降、増加傾向にあります(図2)。

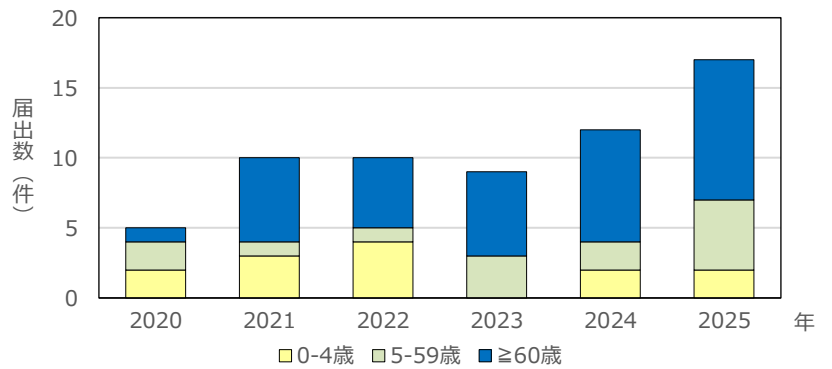
図3 診断時年齢別（2020年第1週-2025年第47週 n=63）



年齢別の届出数は、小児と60歳以上で多く、2歳が最多(5件、7.9%)となっています(図3)。

年齢群を0～4歳、5～59歳、60歳以上と分類すると、2020年から2022年までは0～4歳が増加していましたが、2025年は5～59歳が増加しています(図3)。

図4 年別・年齢群別（2020年第1週-2025年第47週 n=63）



病型を届出票の症状及び病原体の検出検体欄に記載された内容を基に髄膜炎、肺炎、菌血症、その他に分類\*すると、年齢群別で差があり、0～4歳では菌血症が多く、5～59歳及び60歳以上ではその他を除き肺炎が多くなっています。また、5～59歳では髄膜炎が他の年齢群に比べて多くなっています(図5)。

年別の届出数のうち髄膜炎は、2020年には見られず、2021年から2024年までは1件(2021年10.0%～2024年8.3%)で推移していましたが、2025年は3件(17件中11.8%)に増加しました(図6)。

図5 年齢群別・病型別  
(2020年第1週-2025年第47週 n=63)

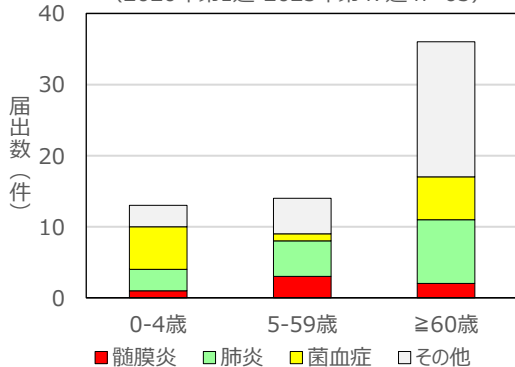
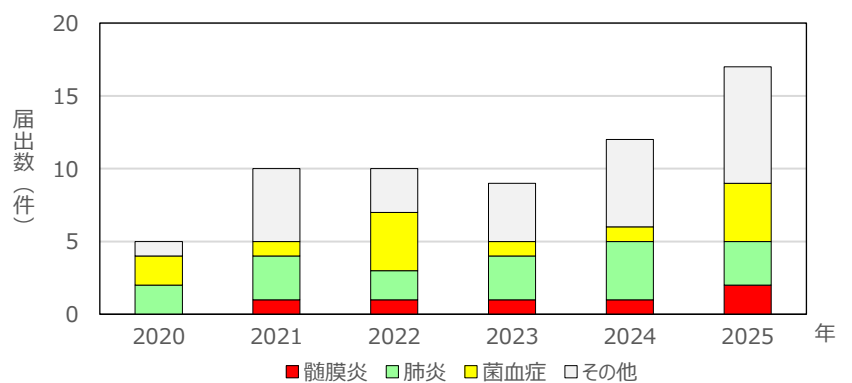


図6 年別・病型別（2020年第1週-2025年第47週 n=63）



髄膜炎：届出票の症状欄に「髄膜炎」の記載がある、又は髄液から菌が検出されたもの

肺炎：症状欄に「肺炎」及び「菌血症」の記載があるもの（「髄膜炎」の記載がある、又は髄液から菌が検出されたものを除く）

菌血症：症状欄に「菌血症」の記載があるもの（「髄膜炎」又は「肺炎及び菌血症」の記載がある、若しくは髄液から菌が検出されたものを除く）

その他：上記以外に分類されるもの

侵襲性肺炎球菌感染症は、*Streptococcus pneumoniae* による侵襲性感染症として、本菌が髄液又は血液などの無菌部位から検出された感染症のことです。潜伏期間は不明で、小児及び高齢者を中心とした発症が多く見られます。

小児と成人でその臨床的特徴が異なり、小児では、肺炎を伴わず、発熱のみを初期症状とした感染巣のはっきりしない菌血症例が多く、成人では、発熱、咳嗽(がいそう:いわゆる咳のこと)、喀痰、息切れを初期症状とした菌血症を伴う肺炎が多い傾向にあります。髄膜炎は、小児では直接発症するものの他、肺炎球菌性の中耳炎に続いて発症することがあります。

侵襲性肺炎球菌感染症は致死性の疾患であり、引き続き発生動向を注視する必要があります。

予防にはワクチンの接種が有効です。

千葉市では小児を対象に結合型ワクチンが定期接種化され、高齢者を対象に予防接種の費用助成を行っています。

詳細は、下記URLをご参照ください。

「小児用肺炎球菌ワクチンの接種のご案内」

<https://www.city.chiba.jp/hokenfukushi/iryoisei/hokenjo/kansensho/haienkyuukin.html>

「高齢者肺炎球菌の予防接種のご案内」

[https://www.city.chiba.jp/hokenfukushi/iryoisei/hokenjo/kansensho/elderly\\_pneumonia.html](https://www.city.chiba.jp/hokenfukushi/iryoisei/hokenjo/kansensho/elderly_pneumonia.html)

---

※ 感染症発生動向調査とは、感染症の発生情報の正確な把握と分析、その結果の国民や医療機関への迅速な提供・公開により、感染症に対する有効かつ的確な予防・診断・治療に係る対策を図り、多様な感染症の発生及びまん延を防止することを目的としています。

＜参考＞千葉県感染症情報センター

<https://www.pref.chiba.lg.jp/eiken/c-idsc/index.html>